

スイミングスクールにおける体験学習法導入の試み

アピアスポーツクラブ

岸本 浩一

昨年の「教育改革と・・・」ミーティングに参加し、その後の1年間のレポートです。

1. 自己紹介・参加のきっかけ

アピアスポーツクラブは富山県・富山市にあるアスレチックジム、エアロビスタジオ、スイミングプールのあるいわゆる「総合スポーツクラブ」です。その中のスイミングスクールでは0歳から80代の方までいろんな年齢層の会員の方がいます。メインとなる年齢層は小学生です。

業界の流れ全体としては高度成長の時期は競泳選手育成が主な目的であった「競泳塾」からの脱皮を図るクラブが増え、少子高齢化が進み子供対象のスクールからシニア層の割合を増やし、「スクール」から「クラブ」へと変革を図っています。

アピアスポーツクラブにおいても小学生がメインであったスイミングスクールに「みんなが、いつも、いつまでもたのしいクラブ」というコンセプトを掲げ改革に取り組んでいます。

スイミングスクールの事業の一つに夏のキャンプ、冬のスキーツアーなどのイベントがあります。イベントに関しても採算が取れるようにと「アウトドア事業部」を設立しました。そのプログラム内容の充実のためプロジェクトアドベンチャー(以下PA)や、アウトドアバウンドスクール(以下OBS)のプログラムも全社をあげて体験しています。

小・中学生対象のスイミングスクールのピークとなる年齢は小学3~4年生です。高学年、中学生になっても続けていけるようなプログラムとして「イルカクラブ」を導入しました。「中学生だから楽しめること。」を目指し、通常のスイミングのプログラムのほかに月1回ミーティングを行い、プール以外の活動を行いました。(現在は発展的解消されています。)

「イルカクラブ」の活動の中で出来上がってきた目標は以下の3点です。

- ① 目標をもつー夢を見る
- ② 自己表現ができるー夢を語れる
- ③ 目標に向かっての努力・協調性ー仲間と協力することで、一人では不可能なことでも可能になる。

「イルカクラブ」は土曜日が一番遅い時間帯に設定し、水泳部以外の部活動を行っている子供たちも参加していました。完全週休2日の導入等により、当初「あえて」土曜日に集めてい中学生・高校生の会員も平日に散らばるようになり「イルカクラブ」当初の目的である高学年・中学生会員の退会防止となったかこから「イルカクラブ」は発展的解消となりました。

「イルカクラブ」のメイン行事である「スキーツアー」「サマーキャンプ」に導入できると思い、体験学習法の概要を学ぶために「教育改革と体験学習法全国ミーティング2003」に参加しました。

2. 参加して考えたこと

2003年のミーティングに参加するまでは

[体験学習法→PAやOBSのプログラムを取り入れたもの]

と思い込んでいるところがありました。これは現在のアピアスポーツクラブの現場スタッフ(スイミングコーチ)にも多く当てはまると思います。

ミーティングに参加して体験学習法の学習サイクル[PLAN-DO-SEE-GROW]をおさえて、きちんと担当コーチが子供たちを理解することにより、週1回、1時間のプログラムでも学習サイクルを導入できるのではないかと
いう思いが浮かんできました。

これまでアピアのスタッフが体験してきたプログラムー「ふりかえり」などーは野外活動的なもの、じっくりと時間をかけて「ふりかえり」を行います。週1回1時間のプログラムに(たとえば)毎回30分の「ふりかえり」を行うことは効果的ではないでしょう。

3. プログラムへのすり合わせ

2004年度からスイミングスクールのプログラム充実を図る際にスイミングのスタッフでアピアジュニアスイミングスクールの「コンセプト」ー「みんなが、いつも、いつまでも、たのしいクラブ」について話し合いました。とくに「たのしい」についてこだわりました。「本当に子供たちは楽しく通ってきているのだろうか」「プールで子供たちは笑顔でいるのだろうか？」

「たのしい」を実現させるために以下の目標を作りました。

「アイスブレイキング」の導入でたのしいレッスン。

「ホスピタリティ」あふれる対応で心地よいプールに。

「ふりかえり」で達成感、次の目標へのチャレンジを。

この3点については必ず1回のレッスンに導入するように議論・研修を重ねました。

ここで言う「ふりかえり」とは・・・

「ふりかえり」の手法

ふりかえりとは？ → 自分の心の動きを気づくこと。

→他者から押し付けられるものではない

あるひとつのプログラム・行動ーレッスン内容について

- 1 開始前の不安感
- 2 実行中の気持ち
- 3 終了後の達成感

を「自ら感じる」ことが心の動きを感じることにつながる。

<実際に指導者(支援者)>の役割例

- ・ プログラム開始前の気持ち(希望や、不安感)を聞いてみる。
- ・ プログラム中の声かけ(激励、支援)
- ・ プログラム終了後の「ふりかえり」

全体が顔を見渡せる形(円形)になつての問いかけ

開始前の気持ち

実行中の気持ち

終了後の気持ち

をきいてみる。

→項目としては指導者が感じてほしいような答えを・・・

そう思う>手を大きく上げる

中くらい>手を半分上げる

思わない>手をあげない

などのように、必ず自分の気持ちを表せるような問いかけを行う。

答えを強制する必要はないが、慣れるまでは答えが出にくいこともある。そのような場合は、グループの中のリーダー的なメンバー何人か個人的に問いかけ見てもう一度全体に問いかけてみることも必要かもしれない。

プールでのレッスンにたとえると、

- 1 レッスン開始時に本日の目標を伝える
- 2 レッスン中の成功や失敗
- 3 レッスン後に問いかけ

という形になる。最後のふりかえりを行ったときにコーチからがんばったことをほめてもらうことが達成感につながり、次へのステップとなる。

「ふりかえり」「アイスブレイキング」を導入にあたり既存のスタッフの抵抗感は想像した以上に大きく、当初内容を理解してもらうにも困難を極めた。何度も研修・議論を重ねていくうちに、「まったく新しいことをするのではなく、これまで無意識的に行っていたことを体系だてるとこのような形になる。」ということを出し4月からといわず(12月から3月にかけて、研修、議論、討論の繰り返し)にできるところから導入、2004年4月からジュニアスイミング全クラス(対象:3歳から中学生)で導入した。(スタッフ数:スイミングインストラクター約30名)

【導入の成果】

野外活動の「ふりかえり」を知っているスタッフだとある程度高い年齢にならないと「ふりかえり」の概念は伝わらないのではないかとスタッフの自己満足に終わらないかととも危惧も合った。しかし「ふりかえり」を導入することでのスタッフが気づくことも多かった。

例) 3歳児中心の水慣れクラス(まだ顔も充分につけることができないクラス。)でレッスン終了後に「今日がんばったこと」をきいてみたら、ある子供が「もぐりをがんばった!」—担当コーチから見ると決してもぐっているとはいえない状態、正直言って水遊びしかしていないと担当コーチはみていたのだが、子供にとってはそれが「もぐれるようになること」をがんばったととらえていた。子供は大人の想像するところ以上に考えてがんばっていることに気づかされた、決して大人のものさしではかるのではなく、子供の話を聞いてあげることに「コーチが気づかされた」場面である。「体験学習法」とは、対象者だけでなく指導者も体験することにより成長していくことがスタッフにも芽生え始めてきている。

4. 新プログラムの新設

1. に記した「イルカクラブ」の発展プログラムとして、体験学習法の要素を取り入れたプログラム「シーズンプログラム」を4月より高学年・中学生が多く在籍している時間帯の4泳法習得クラスに導入し、「シーズンプログラム」と名づける。

シーズンプログラムの目指すもの

概要

- ① 1年を3ヶ月単位の4シーズンにわけ、シーズンごとにテーマを持ってレッスンを進める。
- ② テーマはクラスごとに子供達の希望を取り入れていく。
(→導入当初はある程度コーチからの方向付けが必要。)
- ③ 「体験学習法」の考え方を取り入れ、レッスンごとに「ふりかえり」、シーズンごとに「わかちあい」を行う。

基本コンセプト

アピアのコンセプト「みんなが、いつも、いつまでも」をさらに発展させ、「泳げるから楽しめること」を追究する。

アピアに来れば楽しい→ 楽しいとは… ・楽しいプログラム
・楽しい仲間(メンバー・コーチ)
※偶然の楽しさ・仕組まれた楽しさ アピアがこちよ居場所となる。

⇒効果は…？(目標—どんな子供達になってほしいか？)

技術面 基本4泳法は出来ていて当然。基本泳法をさらに発展させるプログラム。

Ex)いかに疲れないで少ないストロークで泳ぐか、
少ないエネルギーで、いかにはやくおよぐか …など

心理面 「夢に向かってチャレンジできる」 ⇒ 夢をもてる心
チャレンジできる心
「自己の存在の確立」 ⇒ 自分のことは自分で決める心
相手の心を思いやれる心

上記のコンセプトにのり

「泳ぎを楽しみながら、クラブライフをエンジョイする。」

ことをめざす。

具体的な内容

<1年間のプログラムのながれ>(モデル)

4~6月【フレンドシップシーズン】 仲間作りをしながら4種目の違いについて考える。

7~9月【オーシャンスイムシーズン】 プールだけでなく、海でも泳げる泳ぎ方を身に付けよう。

など…

5. イベントにおける応用

「イルカクラブ」のころから続いている高学年・中学生対象のイベントに「スキーツアー」があります。従来低学年から高学年までを対象にしていたプログラムですが、高学年の参加がすくなく「低学年と同時に思いっきり滑れない」「友達と申し込んだのに年齢のわりふりでグループが離れてしまった。」などの声があった。そこで思い切って少人数にしぼり高学年だけのスキーツアーを開催。今思えば暗中模索で高学年の子供たちが楽しむためのプログラムづくりをしてきました。

例) 手作り名詞交換会・壁新聞作り・スキー場探検マップ創り

昨年のミーティングで「プログラム作り」において、「プログラムのコンセプトを明確に」ということを学び、高学年スキーのコンセプトは何か？を改めて構築。「高学年だからたのしめる」→「プログラムを自分たちで作り、仲間作り」をコンセプトとし従来のプログラムを改良。募集の際にも「フレンドシップスキーツアー」と銘打ち仲間作りをアピール。このようにすることにより3日間の1日目から子供たちのほうから「仲間作り」を意識した行動が見られた。

(3日間のプログラム)

1日目 バスの中で自己紹介、スキー場マップ創り、パーティーに向けたミーティング

2日目 スキーを思いっきり滑る(壁新聞取材)、夜:パーティー 3日目:壁新聞創り

いつもプールで顔は見たことあるけれどしゃべったことがない子供たちだったが3日間のプログラムが終了した後もグループを作って遊びにいらっているようです。小学校高学年から高校生まで年齢・学校の違った仲間が作れる貴重な機会となったと思います。

そして、コンセプトを明確にすることで悪天候等によるプログラム変更にも柔軟に対応できるようになった。(シュノーケルツアー)

6. 今後の展望

1時間のレッスンでの「ふりかえり」では自分の気持ちを確認するだけにとどまっている。気持ちを共有するための手法の開発が必要。→10月のシュノーケルツアーでは自分の意見はいえるが、他人(指導者を含めて)の話最後まで聞くことができない傾向が見受けられた。

シーズンごとにイベント(日帰り・宿泊を含めて)を行ってプール以外での子供たち気持ちを共有できる場ー子供たちだけでなく、スタッフの成長の場でもあるーを作っていく必要だある。

「体験学習法」的なプログラムに興味を持っている指導者・保護者の情報交換の場がほしい。インターネットを使用すれば、全国どこにいても情報を共有することができる。

まだ専用のページは作っていませんが岸本個人のサイト <http://www.kissy21.net/> において準備ページ(掲示板)を作成予定。

(連絡先) アピアスポーツクラブ
富山県富山市稲荷元町2-11-1
076-431-3321
kissy@kissy21.net